



# 創業支援

福井県よろず支援拠点

企業名	えいごはうすAplus		
代表者	中橋仁美	所在地	鯖江市
業種	学習塾	事業内容	子供向け英語教室

## 数値目標の明確化で起業から事業へステップアップ

現状	<p>2016年に英語教室を始めたいと考え、創業支援が受けられるということでよろず支援拠点に相談に訪れた。2017年に創業し、子供向け英語教室を開設した。当初は計画通りの集客にはならなかったが、7月に実施したコスタリカ人の友人を招いたイベントに新聞社やテレビ局の取材が入り、年度当初の目標であった生徒数をクリアした。高校入試に英検が採用されることになり、その対策教室を始めたことなどもあり、2018年には前年の2倍を超える業績を確保できた。</p>
----	--

分析提案	<p>創業の段階に必要な投資を行う際に、小規模事業者持続化補助金の活用を助言してもらい、採択されたことで、資金負担が軽くなった。同様の教室は鯖江市内外にもあるので、そこの違いを市場に対してきちんとアピールすることが重要であった。偶然ではあるが、よいタイミングでコスタリカ人の友人が鯖江に来ることが決まり、英語学習に対する基本姿勢と教室の情報を、マーケットに対して効率よく発信することになるようなイベントに仕立て上げることを助言した。プレスリリースの作成によるマスコミへの情報提供や、鯖江市長の表敬訪問のアレンジによる話題作り、当日のイベント運営計画のレビューなど、具体的かつ詳細な検討を継続した。イベント当日は40名ほどの来場者があり、その多くが教室の新規見込客となった。その結果、マスコミに露出でき、認知度が向上したことで生徒募集の効率が一気に高まった。</p>
------	--



授業風景



中橋代表

成果	<p>開業3年目で前年比200%アップを達成し、生徒数は現在も順調に伸びている。初期投資を過大にしなかったことで、財務的にも安定している。</p>
----	---

支援コーディネーター



西山雅彦



藤田順一

企業名	WA babywrap		
代表者	須佐瞳	所在地	福井市(相談時。現在は金沢市)
業種	乳児用品企画製造	事業内容	乳児用抱っこ紐の開発、製造、販売

## プチ起業後の販路開拓やメディア活用で業績150%アップ

現状	<p>看護師として働きながら子育てをしている主婦。自身が考案した新しい形状の抱っこ紐を、知人を中心に販売してきた。Instagramなどへの投稿によって全国から少しずつ注文が入るようになったが、ダブルワークで事業にあたってきた。考案した抱っこ紐に関して特許を出願したいということで発明協会を訪ねた際に、事業化の進め方などについてはよろず支援拠点に相談することを提案された。</p>
----	--

分析提案	<p>当初は全て自分で製品を作っており、注文増に合わせて外注製造と発送を依頼していた。注文が増えると資材の仕入量も増え、仕入先の見直しや仕入資金の調達なども必要となった。事業としてどこまで伸ばすのかを具体的に検討して事業計画に落とし込むことが必要であった。また、個人のSNSでの発信に頼ったPRや販路開拓では受注力に限界があるので、製造能力の増強に合わせて新たな発信策の検討と販路の拡大も必要となった。抱っこ紐は近年見直されており、輸入品も含めて様々な商品が市場に出てきていることが分かってきた。古の製品は、おしゃれ感がなく、使い勝手も良くないという問題を解決しており、特許の可能性がいくつにも明確な差別化ポイントがあることも明らかになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①事業計画の策定</li> <li>②製造委託先の開拓</li> <li>③プレスリリースの作成と活用</li> <li>④子育てワークショップへの参加や開催</li> <li>⑤全国向けの販路の紹介</li> </ol> <p>の5点に注力することを提案した。</p>
------	--



開発したベビーラップ



須佐代表

成果	<p>販売数量が月間100枚をコンスタントに超えるようになり、150枚を超える月も増えてきたので、この事業に専念することになった。福井新聞に大きく取り上げられた記事をSNSなどで拡散し、県外からの発注が伸びた。また、東京の子育て支援NPOなどの繋がりができ、東京市場への進出の足がかりになった。策定した事業計画に基づいて、生産能力の増強と仕入先と仕入量の見直しを行い、受注増に対しても迅速に対応できた。</p>
----	---

支援コーディネーター



宇田川静夫



増田建